

はじめに

校長 佐藤 正光

平成 27 年度指定スーパーグローバルハイスクール (SGH) の認定校としての研究開発実施報告書 (第 3 年次) を提出いたします。

本校は国際バカロレア機構 (IBO) のミドルイヤーズプログラム (MYP) とディプロマプログラム (DP) を実施する学校として、その特長を活かした SGH の実践を目指しています。実施から 3 年目に当たる本年度は、大学や研究機関、企業、NPO などの研究者や事業者に多くのご協力をいただいて、さまざまなプログラムを実施し、生徒達の自発的な発想による研究活動を推進してまいりました。

SGH は「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的としています。本校では、日頃から授業や学校生活を通じて生徒たちに国際社会の中に存在する現代的課題に正面から取り組み、問題解決のための問いかけを行っています。

現代の社会が抱える格差や貧困による食糧問題、世界的な環境問題、テロリズムや国家主義による紛争や脅威などあらゆる社会的事象に生徒が自発的に関心を持ち、その原因や解決方法を考える。そして、そのために為すべき合理的な論理と方法を見出すこと、それが国際バカロレア (IB) の目指す探究型の教育です。本校では 6 年間一貫の教育を通じて数十篇の課題レポートに取り組むほか、1 年生の富士ワークキャンプ、3 年生の沖縄ワークキャンプ、5 年生のカナダワークキャンプにおける研究と体験活動、4 年生が取り組むパーソナルプロジェクト (PP)、5・6 年生の課題研究など多くの研究の機会を設定しています。SGH は生徒の発表の場を飛躍的に拡大し、大学や高校での合同発表やシンポジウム、また海外で開催される意見交換会やグループワークなど、生徒たちに広い世界の様々な人たちに出会う機会を提供してくれています。

本年度は、認定後 4 年目を迎えたスーパーサイエンスハイスクール (SSH) と SGH との整合性と相対性、相乗作用とを注意深く考慮しながら、事業を進めてまいりました。管理責任者である東京学芸大学も特別推進委員会を設置し、今年度で 2 度目となる SGH・SSH 合同研究発表会を開催し積極的に支援してくれております。

失敗こそが研究の基礎であり、1 年で達成できなかったことも 2 年、3 年と取り組むことが研究の本質です。そして研究に何度でも挑戦できるのが、6 年一貫教育の最大の利点です。生徒たちは昨年度の研究をさらに発展させたり、後輩に研究を継承してもらったり、いろいろな工夫を行うようになってきました。そして先輩のプレゼンテーションを見た後輩たちが、それを参考にしてさらに興味深く実証性の高い研究を生み出すようになってきています。

私たちは、生徒の抱く夢のような発想が実現の可能性に一步でも近づくことを、そしてその夢に向かって突き進む前向きな生徒たちを育てることを理想として、日々この事業に取り組んで参りました。その成果を御高覧いただき、ご指摘、ご助言を賜わることができましたら幸甚に存じます。